



ふるぼう知生の

「古ちゃん'S レポート」 第21号

こんにちは。桜の咲く季節を迎えましたが、お元気でお過ごしでしょうか。

さて、今年の第一回定例会が2月17日から3月26日まで本来の会期を四日間延長して開かれ、激しい議論をして参りました。内容をまとめましたのでご一読いただければ幸いです。

今回の議論の中心は何と言っても、平成24年度豊島区予算案でした。私も会派を代表し、予算委員会に参加し、古塚議員と共に9日間の審査をしました。総じて感じたことは、リーマンショック以降の世界経済の影響により、豊島区も税収が落ちているということ、そして来年度末の財政調整基金の残高が34億となることから税収不足をもう基金に頼ることはできず、「聖域なき事業の総点検」により歳出カットせざるを得ない差し迫った状況であるということです。来年度行われるその事業の総点検は民間の視点を含めてしっかりと行い、またその出た結果に対しても責任をもって遂行するという区の決意を確認しました。

いろいろな事業の見直しにより、区民の皆様には補助金等々で廃止および減額になることも予想されますが、やはり身の丈に合った財政が基本ですから、致し方のないことだと考えます。今後、役所も議会も説明責任が求められることになってきます。私は徹底的な情報公開をしていく所存です。

平成24年3月26日

豊島区議会議員 古坊 知生

第1回定例会(2月21日) 一般質問をしました。



「過去と現在を正しく把握し、未来に向けて種をまく政治を」

1. 人口動態の分析について
 - (1) 人口増加傾向の根拠について
 - (2) 合計特殊出生率について
 - (3) 適正な人口水準について
 - (4) ファミリー世帯増加への視点について

(5) 理想的な人口バランスについて

- ① 区のお考え方について ②24年度予算における施策や事業について

2. 安全・安心創造都市について

- (1) 帰宅困難者対策訓練について
- (2) 防災・震災対策について
- (3) 耐震化の促進について
- (4) 区内公共施設における対策について

3. 教育について

- (1) 図書室や図書館の環境整備について
- (2) 大きな志を持った人間、社会や地域に貢献できる人間を育てる教育について
- (3) 区内公立小・中学校卒業生の著名人について

古ちゃんS チェック

今回の質問のポイントは

- 1. 世代間のバランスのとれた人口構成を目指すべき
- 2. いつ起こるかわからない首都圏直下型大地震に向けて耐震化の促進を図れ
- 3. 「未来を担う子供たちに大きな志を持つ教育を」の3点です。

高齢者の方々が元気で活躍される社会は理想的です。しかしその高齢者の方々を支える若い世代が少ないのでは持続性はありません。少子化対策や若い世代のファミリー世帯を豊島区に誘導するために子育て施策を充実し、世代間のバランスを図ることが重要であるというのが私の信条です。そうしなければ安定的な社会保障制度の維持は困難でしょう。すべての世代において笑い声が響きあう、そんな豊島区を目指したいものです。

また、今までは今後30年以内にマグニチュード7程度の首都圏直下型大地震が起こる可能性は70%であるというのが一般的な常識でしたが、東京大学地震研究所の発表によると、今後4年以内にマグニチュード7程度の首都圏直下型大地震が起こる可能性が70%となってきました。正しく間近に迫った大地震に備えて、耐震化の促進が急務であります。豊島区においては小中学校の耐震化をすべて行っていますが、他の施設についても急がなければなりません。また昨年のも東日本大震災により、帰宅困難者に対する課題がはっきり見えたことを受け、池袋というターミナル駅を擁する豊島区の更なる帰宅困難者対策の充実も急がれています。地元においては東池袋4・5丁目地域がいわゆる木造密集地域として、万が一火災が起こると被害が広がりやすい地域として改善が求められています。狭い道路や防災道路の整備を急ぐことにより、消防車が通れるようにしなければなりません。そのようなことを意識しての内容です。

そして施策を展開してたとえ若い世代が豊島区に集まってきたとしても、未来を担う子供たちがたくさん存在しているということだけではなく、しっかりと教育することが最も大切であると考えます。大きな志を持った人間、地域や社会に貢献できる人間に育てるのが教育です。豊島区の小中学校の卒業生として、柔道家の山口香さん、漫画家の永井豪さん、落語家の三遊亭好楽さん、歌手の橋幸夫さんなどがいらっしゃいますが、多くの人材を国内外に輩出するような豊島区の教育であってほしいものです。そのようなことを要望する一般質問となりました。

《都市整備委員会のワンシーン》 2月24日



・高田地区のマンション建設に伴い生ずる道路の認定に関して委員会として視察を行う。

《予算特別委員会のワンシーン》3月1日～3月16日



1. 総括質疑：聖域なき事業の総点検は民間の視点を活用すること。自助があつて共助があり、最後に公助という原点に立ち返ることが重要。
2. 議会費・総務費：セーフコミュニティ認証式における通訳の充実を図るべき。
3. 福祉費・衛生費：自殺・うつ病対策では対象者の心に寄り添えるゲートキーパーの養成を。
4. 清掃環境費・都市整備費・土木費：界わい緑化事業による商店街活性化を支援すべき。
5. 文化商工費・教育費：小中学校の薬物対策における教育手法を更に効果的なものにすべき。
6. 清掃環境費から教育費における自由質疑：・地方自治体と教育委員会制度のあり方について
・地域のコミュニティの核としての学校を目指すために
7. 三特別会計：後発医薬品（ジェネリック医薬品）を普及促進し、医療費の削減を図るべき。
8. 全部の補足質疑：教育のICT化もさることながら教員の質の向上がやはり最優先である。



最終日の3月16日に、会派を代表して古坂議員に意見開陳をしてもらいました。私は何度もやっているの経験も積んでもらうためです。行財政改革を主張している我々の会派らしい主張になったと思います。平成24年度一般会計予算案、並びに3特別会計について、概ね良とし、賛成をしました。委員会の採決も賛成多数で可決となりました。この予算が豊島区民のより良い生活の為に活かされることを希望します。

【定例会を終えての所感】

今定例会においても会期の延長がなされてしまいました。最終日と予定していた3月22日において、ある問題における会派間の調整が図れず、夜中の12時近くまで議会が開かれることになりました。残業手当等を考えると、議会人の一人として区民の皆様申し訳なく思うところです。

では今回は何故会期が延長されたのでしょうか。事の始まりは、わが会派の小林弘明議員の名前と顔写真が入ったパンフレットや団扇についてある会派から指摘があったことに起因します。特に昨年の9月上旬に池袋の西口で行われた「サク飲みフェスティバル」の行事を告知する団扇に小林議員の名前と顔写真が入っていたことについて、「公職選挙法違反の疑いがある」として選挙管理委員会に連絡をし、池袋警察署に照会し回答を出させました。池袋警察の出した回答は「確かにグレーではあるが、このことをもって事件性を有することにはならない、小林議員がこの団扇を自分の資金で作成して無償で配布したとか、このフェスティバルにおいて買収接待等のことが行われれば事件性を有することとなる。」というような意味の内容でした。それを受けて正副幹事長会で小林議員にそのようなことがあったかどうか詰問するように私が依頼され、状況を把握するために小林議員に確認したところ、「このフェスティバルの実行委員でもなんでもなし、名前と写真は街の活性化のために良かれと思って貸しただけで、疑われているような資金の供与、あるいは買収接待等断じて行っていない。」とのことでした。私はそのことを正副幹事長会で報告したのですが、選挙管理委員会においては既に一連の流れを事務局から聞き、「小林議員のやっていることは、区民に誤解を招く恐れのある行為であり、議員としての品性に欠ける。」との見解を発表しました。他の会派は警察と選管の見解を重く受け止め、何らかの謝罪がないと許さないとの意思を表明。私たちとしては事実関係から今回の問題は事件性も有しておらず、本人にも確認したところ、何ら問題のないことであるとの見解を最終日前日の正副幹事長会の席で述べました。

3月22日、定例会最終日、本会議前に開かれる議員協議会において、その問題に触れて各党会派からすさまじい怒号が飛び交う中、各幹事長が私たちに見解を述べよと要求。議員協議会は議員間の討論の場にはなじまないとの判断から私達は一切発言をせず無視をしました。そこで議長は小林議員に対して嚴重注意の声明を発表し議員協議会の幕引きを図り、本会議をスタートするつもりでしたが、休憩動議が出て、再び正副幹事長会議が開かれそこから再び長い調整が始まってしまいました。私たちは何も悪いことをしているつもりはありませんので、本来は何も発言する必要はないと思いましたが、議長の立場を考えるとその言葉を受け止め今後に向けて、会派で作った言葉で一言述べさせてもらいたいと議長に申し上げたところ、他の会派からプリントが提出され、「この謝罪文を読み上げろ」と言わんばかりの要請が来ました。私たちはここまでは譲歩するがそれで譲れないのであれば一切語らないと議長に申し上げ、深夜になったこともあり、とうとう時間切れになって延会になってしまったというのが実情です。

自民党と公明党の議員の中には、以前選挙の時のガソリン代の水増し請求を行っていたことが発覚して、全額返還をした議員もいます。それは明らかに詐欺であり犯罪ですよ。自分たちの会派のメンバーでそのようなことをやっていて、今回の小林議員の件に関して警察も問題視していない内容について謝罪しろというその感覚が私には理解できません。これは正しく議会改革を訴え、今までの議会の在り方を否定している新しい会派に対するいじめです。今後は議員提出政策条例を私たちの会派で提出しながら正攻法で逆に攻めていこうと考えています。「攻撃は最大の防御なり」ですね。

ふるぼう知生後援会事務局：〒170-0013 豊島区東池袋5-48-12 TEL&FAX：6912-9595

E-mail:t-furubou@adagio.ocn.ne.jp

会派：みんな・無所属刷新の会 TEL&FAX 3981-1350